

Takikawa Gliding Information for visitors

(Ver.1.4)

2020年5月22日

(公社) 滝川スカイスポーツ振興協会：SATA





はじめに

たきかわスカイパークへ、そして北海道の大空へようこそ！

広く澄み切った空、豊かな自然が広がる広大な大地。北海道の空を一度でも飛んだあなたはきっとその空の持つ素晴らしさ、無限の可能性に気付くことでしょう。

このビジターズガイドには、たきかわスカイパークを訪れたビジター

パイロットが周辺エリアを飛行する上で必要な幾つかの大切な情報が掲載されています。是非、ご一読の上、北海道の空を楽しんで下さい。

たきかわスカイパーク運航主任 日口 裕二

たきかわスカイパークとは

たきかわスカイパークは、多くの人に空をもっと気軽に感じてもらえる「空の波打ち際」を創造しようと、1993年につくられた日本で有数のグライダーセンターです。

北海道の澄み切った大空と雄大な自然を思う存分満喫できるフリート、快適な施設、そして何よりも情熱あふれる経験豊かなスタッフが訪れる全ての人々に大空の夢と楽しさを提供しています。

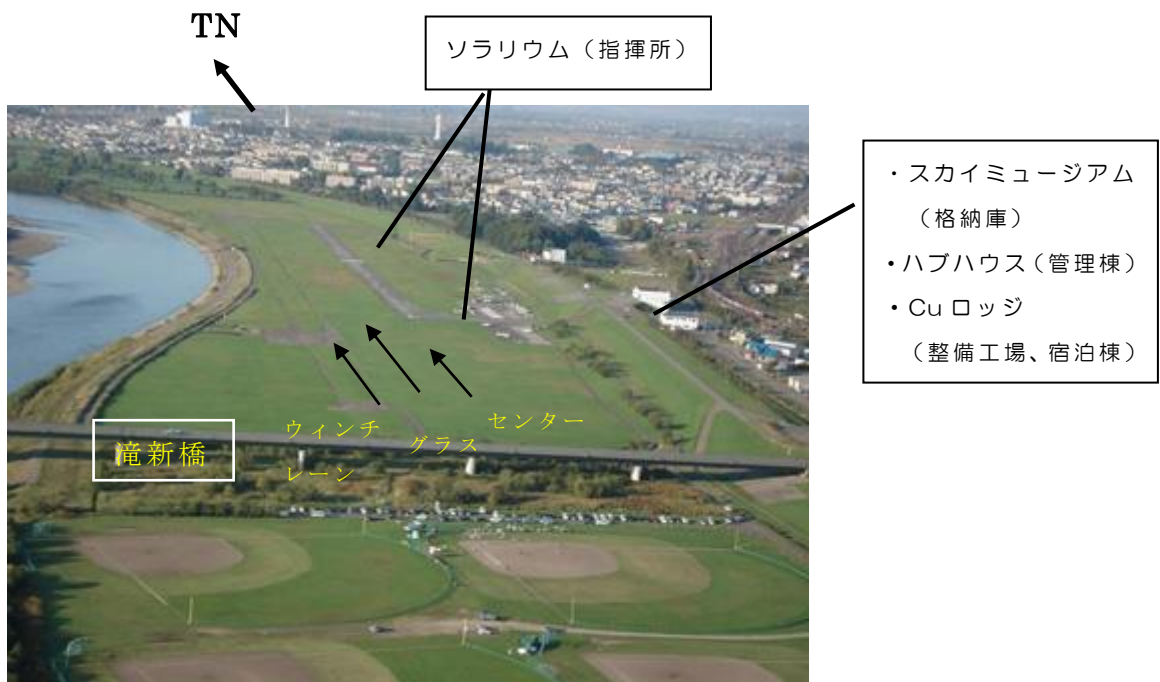
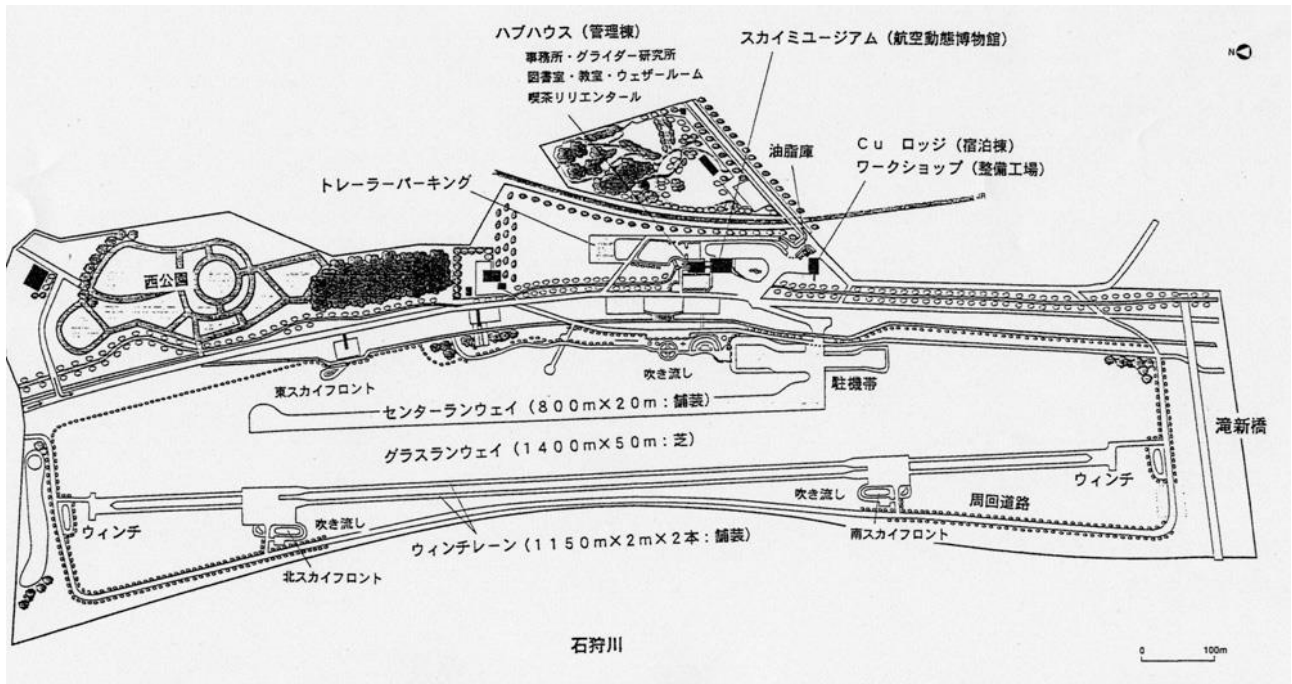
ここでは、グライダー愛好者の皆さんは訪れる全ての人々を大空の世界に誘う「空のガイド」です。こども達がグライダーに近寄ってきたら、是非コックピットに乗せてあげて下さい。自分の知っている空の魅力を皆さんの言葉でお父さん、お母さんたちに語ってあげて下さい。

空の世界に多くの人々を誘うであろう、さりげない小さな行動を実践できる場所…たきかわスカイパークはそんな場所であることを目指しています。



フィールド情報

(1) レイアウト



01 進入のベースレグ上から見た「たきかわスカイパーク」

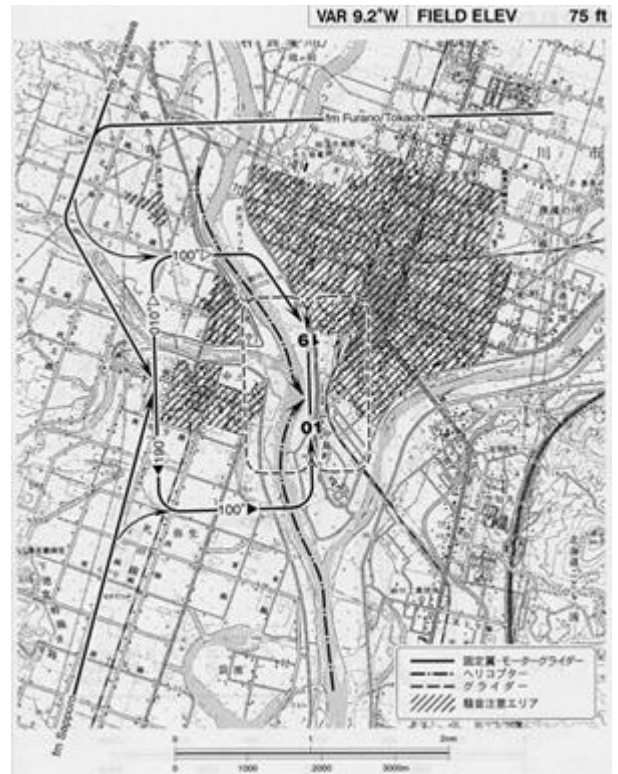
- ランウェー方位は、01/19 (磁方位) …偏差約 9° W
- 離着陸帯は、3本 (呼称:「センター」、「グラス」、「ウィンチレーン」)。ショート側に「L」のマーキング…マーキングの手前には着陸禁止 (障害物があり、危険)
- 「ウィンチレーン」に着陸する際は、2本のレーン (2m幅) のうち土手側を使用すること。川側に着陸すると、偏向した場合川に落ちてしまう危険性がある。また、2本のレーンの間の芝地には排水枘があり、段差により機体を壊す危険性がある。
- センターランウェーと土手との間のグラスエリアは人と航空機とのバッファゾーン。したがって、航空機の離着陸はできない。(運航時の機体・車輛移動にこのエリアを使用)

- d. たきかわスカイパークにおける運航・全般統制は「ソラリウム」(移動式)にて行う。
- e. 無線は VHF のみ。周波数は、130.65MHz。地上局は、「タキカワフライトサービス」。
- f. フィールドエレベーションは、約 80ft。
- g. (1) フライト上の注意事項
 - ・強い西風成分を伴う場合、低水路護岸の影響で乱流が生ずるため、離着陸時注意を要する。
 - ・強い東風成分を伴う場合、O1の離陸時に土手の影響で乱流が発生するため、注意を要する。

(2) 場周経路

- a. グライダーの場周は、東側・西側どちらも使用可。
- b. MGの場周は、西側のみ
- c. 動力機の離着陸は、騒音対策のため川の上を飛行。(グライダー曳航時と同様)
- d. チェックポイント高度は、800ft(MSL)を基準とする。
特に東側場周は常時街の上を飛行する(降りるところが全くない)ため、高めに設定すること。

※チェックポイント以降、着陸地点を目視できるように、diagonal pattern を推奨している。



(3) ローカルルール

a. 飛行機曳航時

- ・リリース取付者は、曳航ロープの点検及び出発前確認(ダブルチェック)を兼ねる。
- ・パイロットは、無線により曳航のリクエストを行う。(無線機のチェックを兼ねている)
- ・翼端保持者は、パイロットのサイン(親指を立てる)により主翼を水平にし、張り合わせのサイン(腕を下で振る)を曳航パイロットに送る。曳航機の張り合わせが完了し、機体が動き始めたら出発のサイン(腕を頭上で大きく振る)を送る。その間、パイロットは無線を使用しない(いわゆる「出発」コール等は不要)。パイロットが張り合わせを中止したい場合は、翼端保持者に合図を送り(親指を下向きにする)、保持者は翼端を直ちに下げる。
- ・曳航はレベルトー。
- ・離脱高度に達したら、曳航パイロットは曳航機を減速させる(*)とともに、左右に翼を振る。この合図を見たら、グライダーパイロットは直ちにロープを離脱するとともに、離脱確認後右へ旋回する。曳航機は左に降下旋回。
* 曳航機はロープ巻き取り装置を備えているため、ロープにテンションがかかったまま離脱するとロープがからまり、巻き取れなくなってしまう。
- ・緊急時には無線が優先する。

b. ウィンチ曳航時

- ウィンチ曳航中は、緊急時に備え不要な無線の使用制限を行う。
- ウィンチ曳航時には、低高度（離脱高度以下）での滑空場上空への侵入を制限する。

c. 無線の交信要領

※グライダーの呼称は JA ナンバーまたはコンテストナンバー（垂直尾翼に表示）で行う。

• 曳航のリクエスト

HC：「JA4067、20HC リクエスト 西 5km 2,000ft エアワーク」

RO：「HC、4067 了解」

「4067 Take off 19 with グライダー」

• 離脱後

HC：「滝川 FS（フライトサービス） HC 離脱 3,000ft （距離〇〇km）」

※離脱の無線（高度、距離）は、料金の関係

• 着陸時

DH：「滝川 FS DH オン・レフトダウンウィンド チェックギアダウンロック」

FS：「DH リチェックギアダウンロック グラス」

DH：「DH リチェックギアダウン グラス」

• ソアリング時

FS：「33 滝川 FS リクエスト・ポジション」

33：「33 3,000ft 西 15km 上昇中」

FS：「滝川 FS 了解」

※滞空時は、15分に1回程度ポジションレポートを送信すること。

機材情報

（1）レンタルグライダー

- 複座グライダー ASK21×3、FOX

モーターグライダー Janus CM、Duo DiscusXLT

- 単座グライダー PW-5×3、G102Astir、Discus b/CS、ASW20L

ASW24WL

モーターグライダー ASW28-18E×3

※FOX、Janus CM、Duo Discus のソロ・ユースは行わない。

※各機の基準時間（別ソロフライト基準参照）

- クラブクラス 総飛行時間 20～40 時間以上
- スタンダードクラス 40 時間以上
- 15m、18m クラス 70～100 時間以上

※クロスカントリーに使用する場合、使用機による最低 3 回の離着陸を行うこと。

（2）取扱い

- 地上の移動に関して、全機について One man handling できる機材（牽引セット）が整っている。
- パラシュートについては、標準装備。
- 基本的に、各機組み立てたまま格納（展示）及び搬出。

(3) レンタル料金

- ・別料金表による

空域情報

(1) 管制空域

- 1,000ft (AGL)以上の空域は、航空交通管制区内。
- 8,000ft(MSL)以下の空域は、札幌進入管制区内。



- 民間訓練空域がスカイパーク南 5km にあり
- 付近の航空路等については、区分航空図 JAPA-501 参照

(2) 新千歳 FSC

- ・呼称：「ニューチトセイソフォメーション」
- ・周波数：134.75MHz（札幌）

(3) フライトプラン

- ・新千歳空港事務所 TEL.0123-23-4116

気象情報

(1) 情報の入手先

北海道 Blipmap

http://tk2-233-26218.vs.sakura.ne.jp/BLIPMAP/RASP_Table_H.html

(2) 北海道でのフライトの参考資料

<http://compe3.wix.com/takimtg#!about-4/c14xi>

(3) 最新の旋回点&O/L フィールドリスト (2017 版)

<http://takikawasky.php.xdomain.jp/xc2018/reference/>

